

森林総合研究所林木育種センターでは、前身となる国立中央林木育種場等が昭和32年に設置されてから、この間、成長・形質の優れた品種や病虫害・気象害に強い品種、花粉症対策品種等の開発を進めてきました。

その成果の一つが「エリートツリー」です。全国の森林から選抜された「精英樹(第1世代)」の中でも、優れたものを交配してできた子供の中から選ばれた第2世代以降の精英樹がエリートツリーです。

平成23年度に関東育種基本区で18系統のスギエリートツリーが最初に開発され、それを皮切りにヒノキ、カラマツ、トドマツ等の主要な林業樹種でも開発が進められ、これまでに全国で1,000を超えるエリートツリーが開発されるまでに至りました。

さらに、これらの中で一定の基準を満たしたものは、農林水産大臣により「特定母樹」として指定され、山行苗木(特定苗木)も生産されるようになってきたところです。

エリートツリーや特定母樹は、成長等に優れることから、植栽本数や下刈りの回数を減らすことができ、造林や育林に係る初期投資の削減、省力化につながることで、二酸化炭素の吸収・固定が旺盛であるため、カーボンニュートラルにも貢献することが期待され、国の施策にもその活用が位置付けられ、普及が加速しつつあります。

一方で、エリートツリーや特定母樹の更なる普及を促進するためには、その優れた特性について森林・林業関係者の皆様に理解を深めていただき、採種園や採穂園への導入、山行苗木の生産、そして実際の造林に活用していただくことが必要となります。

このため、林木育種センターでは、エリートツリーの成長・材質・繁殖の特性に関するデータ収集・解析を進めてきました。今回、九州育種基本区の特定母樹に指定されているスギエリートツリーの特性を評価し、特性表としてとりまとめ、公表することとなりました。

特性表の中では、成長・材質に加え、九州地域のスギが主にさし木苗木で造林されるため、さし木の発根率について、また、花粉症対策が求められる中、花粉の生産量(雄花の着花量)についても評価をしています。

なお、エリートツリーの特性表については、他の育種基本区でも作成を進めるとともに、内容の充実も図っていきたいと考えております。

エリートツリーや特定母樹の更なる普及に向け、森林・林業関係者の皆様とも引き続き連携を図りながら取り組みを進めて参ります。

令和6年3月

国立研究開発法人森林研究・整備機構
森林総合研究所林木育種センター 所長

箕輪 富男